「大切な家族」

岡田 圭輔

ぼくの家族は、おじいちゃん・おばあちゃん・お母さん・お兄ちゃん
が二人とぼくの6人です。

お父さんは、ぼくが生後三カ月の時に病気で亡くなってしまいま
した。

だから、ぼくはお父さんの事が全然記憶にありませんでした。小
さいときからぼくが、手をあわせてる写真のお父さんしか見たこ
とがありませんでした。

でも、おじいちゃん、おばあちゃんがぼくをやさしく、可愛いがっ
てくれました。

おじいちゃんは、ぼくが小さいときからずっと遊んでくれたり、い
ろんなところにつれてってくれました。おばあちゃんは、ぼくが大
好きなおはんをいっぱい作ってくれました。

だから、大好きです。

今でも、おじいちゃんやおばあちゃんには、可愛いがってもらって
いて、幸せです。

お父さんがいなくて、思い出がなくてさびしかったけど、たくさん
のいとこやおじいさん、おばさんも一番小さいぼくを、可愛いがっ
てるから、いつも楽しいです。

お母さんは、

「圭ちゃんがいて、よかった。」

とよく言います。その意味がなんとなくわかってきたような気が
します。

ぼくの存在も大きいとわかり、ぼく自身もぼくを大切にしていっ
て、少しでも家族の支えになれたらなと思います。

そして、家族も大切にしていききたいです。